

RNNReligious NGO Network
On Humanitarian Support
Since 1996世界各地で人道援助に取り組む
宗教NGO、宗教者、信仰者を結ぶ
人道援助宗教NGOネットワーク

RNNニュースレター

そよがぜ

爽やかな風を世界の人々に

発行所

国際貢献トピア岡山構想を推進する会内

人道援助宗教委員会

委員長：西村美智雄

広報担当：永宗幸信

事務局

〒701-1212岡山市尾上神道山2770

TEL / FAX 086-284-1242

URL: <http://www.mn.jp/>

RNN事務局長：黒住宗道

感動 感謝 そして祈り

国際貢献トピア岡山構想を推進する会会長
重井医学研究所名誉所長
理学博士

沖垣 達

1958年、私は
国際基督教大学（東
京・ICU）に就職
しました。当時、大
学名に「国際」とあ
るのとはとても新鮮で
した。しかし私には
今ひとつ得心がゆか
ず、無謀にも学長室
に押しかけて行つて質問しました。国際化とか国際社会とは
何かを知りたかったからです。ところが、学長は「君、それは多くの人々がごちやごちや
と暮らすこと」と言つてほえみしました。格調高い理論を
頂けると思つていた私は失望しました。それから半世紀、今
にして私は学長が正しかったことを思い知らされています。1963年、米国での生活が始まりました。ある年のクリ
スマスに友人達が集いましたが、A君一家は招かれていませ
んでした。それは宗教が違ふという理由からでした。翌春A
君宅に招かれましたが、出掛けてみると私達夫婦だけでした。
「君は我々の宗教も聞かずに招いてくれたのだね」という
私に「いいじゃないか。君達は良い友だちだ」という返事が
戻ってきました。私は妻と顔を見合わせ、なぜか「人畜無害」
という言葉が思い浮かびました。私達は常に人畜無害でいい
のだろうか。強い信仰の中で無害人種はどう生きるのか。今
もって考えさせられています。1970年でしたか、米国永住権取得と同時に徴兵局への
出頭令が届きました。ベトナムで次々と学生が戦死していっ
た時代です。そこでは米国への忠誠を誓いました。ここで私
は初めて、愛国心とか、国の為に死ぬことについて考えるこ
とになりました。

とになりました。

1984年、久々に帰国して岡山に居をかまえた私に、巨
大な国際会議の事務総長という大役がまわってきました。結論としては、東京のNHKホールなどで50か国4000
名の会議ができました。この会議に米国からR教授が参加し
ました。R教授と私は、その10年前に北米大陸を横断する長
距離電話で共著論文を仕上げて、米国癌研究所誌で発表した
ことがありました。しかし、直接会つたことはなかったのです。ホテルのロビーに、聞き覚えのある声の、しかし初対面の
R教授とおぼしき人物がいました。この日まで私は、彼が東
洋系米人とは知りませんでした。二人は声もなく抱き合い、
そして涙しました。お互いの声しか知らない同士がこうして
出会うまでには随分時間がかかりました。さて、岡山では、ご存知のように様々な国際ボランティア
活動もしていますが、そのきっかけは、外国人旅行者のホー
ムステイでした。拙宅に泊まって下さった方が、私の出張先
のワシントン郊外におられるので電話をしてみました。突然
のことなのに夫妻は仕事を休んで車で迎えに来てくれました。
お宅のピアノの上には、わが家の写真がほろりを被つて待っ
ていました。夜ふけて辞去しようとした矢先、医師のご主
人が言いました。「たとえ、かつてのように両国が闘つたと
しても、私は君に銃は向けない」。何ということでしょうか、その時、私も全く同じ事を言っ
て別れようとしていたのです。私は胸に大きくこみ上げるも
のを感じながら、でも笑顔で別れました。ここまでお話ししたことは、実体験ではあつても、何の脈絡
もないように思えるでしょう。しかし、私にとつては、人や
愛や信仰を考える時に必ず脳裏をよぎる一連の想いなのです。
そして、それは常に、かの時のあの人や、あの時のかの方
への感謝につながっています。そして、思わぬ祈りのひとと
きを持ちます。クラージマン※1の皆様の日頃の「苦労と、RNNの並々
ならぬ活動に大きな敬意を表しつつ、無教条基督教者に育て
られたレイマン※2のつたない想いを申し上げます。※1クラージマン(Clarjman) 通常、キリスト教の聖職者を指し
ますが、広く宗教者、宗教指導者を指す場合もあります。
※2レイマン(Leyman) クラージマンに対して用いられる語で、通
常キリスト教の教会に所属してはいても聖職者ではない一般信者の
一人を指します。(注釈：編集部)

そよがぜ 小と加世

9・11の映像を見て

「痛い」と感じた人が
いた。アメリカがイラ
クを攻撃するといふニュー
スを聞いて「もうオレ
を傷つけるのは止めて
くれ」と嘆いた友達が
いた。ピンときた。自分の中の違和感の正体はそれなんだと▼
RNNの青年部長として複数の
教団間で青年の交流会を行つて
きているが、なぜか初参加の人
もまるで昔からの知り合いのよ
う。「どんな活動してるの？」「そつちの信心の特徴は？」な
どと議論しても楽しそう。日
本的というか、東洋的というか。
でも、ちゃんとお互いを尊重し
合つてみたいだ▼居心地がい
いからと毎回来ている青年がい
る。彼はどこにも属さず信心も
していない。聞いてみた。「信
心してる人と、そうじゃない人
の違いってある？」「うまく言
えないけど、元気というか、明
るいように感じる。信心してな
い人のそれとは少し違つて」な
るほど。彼にはそう見えてるん
だ▼信心の安心があるから、落
ち着いて相手に向かえる。尊重
できる。しばらく会わなかった
ら気になるし、会つたら「元気
だった？」となる。たぶん難し
くない。普通に「元気だった？」
で繋がる。争いは嫌だ。痛い。RNN青年部長 杉本 健志
(金光教正教会副教団会長)

2003年 8月15日 沖縄宗教者の会主催 第13回祈りと平和の集い 糸満市摩文仁の丘 沖縄平和祈念塔



「第13回祈りと平和の集い」(主催 沖縄宗教者の会)が昨年の終戦記念日の8月15日、沖縄県糸満市摩文仁の沖縄平和祈念堂で執り行われ、遺族や県民ら約600人が参集して、沖縄戦戦没者を慰霊、追悼し、世界の恒久平和を祈りました。RNNでは沖縄県宗教者の会の創設者の一人、金光教那覇教会の林雅信教会長に招かれ、西村委員長をはじめ、黒住教本部大教殿勤務の黒住忠雅師、黒住教日新社の上田英樹記者ら4人が参加して共に祈りを捧げました。

「沖縄宗教者の会」は、沖縄戦戦没者をはじめ南方海域の戦没者を慰霊、追悼し、世界平和を祈願することを目的に、



県内の宗教者が宗派を超えて集まった組織で、平成3年から「平和と祈りの集い」を開催しており、15団体が加盟して活動しているとのことでした。

行事は、平和祈念堂の中の高さ12層の平和祈念像の前で行われ、午後1時に開会。今年は県仏教会と新宗連が祭典を奉仕し、各宗教の代表が献花するなか、RNNを代表して西村委員長が献花しました。

式典の後、RNNのメンバーはひめゆりの塔などの慰霊碑を巡拝して犠牲者の追悼と、平和への祈りを捧げました。

午後6時から那覇市のパシフィックホテルで開催されたレセプションでは西村委員長と黒住師が登壇してRNNの取り組みを紹介しました(左上写真)。

また、会場では天理教の飯降表統領(この上の写真中央、右隣は林教会長)をはじめ様々な宗教者との交流を持つことができました。

2003年 11/25・26 世界連邦平和促進全国宗教者長崎大会 糸満市摩文仁の丘



「"NO MORE WAR" 戦争、もうやめよう! 共生の祈り・長崎」をテーマに第25回世界連邦平和促進全国宗教者長崎大会(世界連邦日本宗教委員会主催)が昨年11月25・26日、長崎市のカトリック浦上天主堂などを会場に開催され、地元長崎をはじめ全国から参加した延べ約2000人の宗教者、信仰者とともに日本ムスリム協会の樋口美作名誉会長や黒住事務局長らRNN関係者も参加して、世界平和を祈願しました。

初日の平和祈願の祭典では、キリスト教の儀礼を中心に、仏教連合会、新宗連、神社神道、教派神道、諸教による祈りが捧げられたなか、ムスリムを代表して祈りを捧



げた樋口名誉会長は絨毯を敷き、メッカの方向に向けて礼拝されました。また、黒住事務局長は会場席から祈りを捧げました。

2日目は磯村尚徳氏(パリ日本文化会館館長)の「文化の多様性と平和」と題した講演に引き続いて、午後4時半からカトリックセンターでシンポジウムが開催され、長崎県宗教者懇話会代表で、今大会の実行委員長を務めた野下千年実行委員長の司会のもと、渡辺和子ノートルダム清心学園理事長、樋口名誉会長、B・パークガフ二長崎総合科学大学教授、小田義海浄土宗九品院住職が、民族・文化・宗教・政治体制の相違を乗り越えて平和を達成するためにはどうすればよいか、様々な角度から有意義な意見を出し合いました。

写真は、浦上天主堂での祭典及び、シンポジウム(右下)、25日夜のレセプションにて(左下)。



2年目の9・11ニューヨークで平和を祈念

昨年9月11日、黒住事務局長は、ニューヨーク宗教センターからの招聘を受け、テロから2年目を迎えたニューヨークを訪れ、セント・パウルロミュー教会で開催された「第58回国連総会開会に際しての諸宗教による式典」に参列しました。

式典は7年前のコフィ・アナン事務総長の就任を機に始められ、例年9月に開催される国連総会前に執り行われ、同総会を祝福し、世界平和を祈念する意が込められています。

今回、アナン事務総長はアフリカ出張のため欠席でしたが、外交担当副事務総長が代理出席してアナン事務総長のメッセージを読み上げ、国連総会議長の所見に続いて、各宗派代表による祈りが捧げられました。このなかで黒住事務局長は、黒住教副教主として結びの祈りを務めました。

また、翌日、黒住事務局長は式典主催者の本拠地、ニューヨーク宗教センターにて神道についての講演を行いました。

なお、2000年の式典は「宗教指導者によるミレニアム世界平和サミット」

(通称「国連宗教サミット」)の開催をもって代えられたため、今年が6回目の開催となりました。

帰国後、黒住事務局長は第86回定例会議(10月15日開催、会場「金光教平和活動センター」)で式典や記念講演の様子や、ツインタワービル跡地(グラウンド・ゼロ)など、テロから2年目のニューヨークの風景をスライドを用いて紹介しました。

※写真は教会で祈りを捧げる黒住事務局長

※RNNメンバー紹介シリーズは紙面の都合でお休みしました。

イラン南東部大地震被害者救援募金

RNNでは、特定非営利活動法人AMDA(本部=岡山市)が災害に対して緊急支援を開始した場合、協同して救援募金を実施しています。

昨年12月26日(金)午前5時半(日本時間26日午前11時)ごろ、イラン南東部ケルマン州バム付近で発生した地震に対し、AMDAは、28日に緊急医療救援チームを現地に派遣して救援活動を開始し、現在も継続して活動に取り組んでいます。

被災者約12万人、犠牲者も4万人を超えるという甚大な被害が報道されていますが、現在、RNNでは、被災者支援の義援金を募集しています。

寄せられた募金は、AMDAに寄託して、現地の被災者の救援に役立ててもらっています。

下記の口座まで、よろしくお願い致します。

義援金、協賛金等送金用郵便振替口座
加入者名=RNN
01310・9・63933

●「そよかぜ友の会」会員募集中!!

昨年、「そよかぜ友の会」が発足しました。RNNでは、ニュースレター『そよかぜ』を年2回発行して広報活動を行っています。より広く多くの方々に『そよかぜ』の読者になって頂き、RNNの諸活動への理解を深めて頂くことが目的で、入会者には事務局から『そよかぜ』をお届けさせていただきます。(入会金及び購読料は無料です!)なお、災害の起きた場合は募金等のご案内をさせて頂くこともあります。

入会希望の方はRNN事務局までご連絡ください。電話・FAX086(284)1242。住所は表紙右上参照。

映画『アイ・ラブ・ピース』の岡山での上映に協賛

命と平和をテーマに、地雷による義足のアフガニスタンの少女と、ろう啞者の義肢装具士とのふれあいを描いた話題の映画『アイ・ラブ・ピース』(大澤豊監督/忍足亜希子主演)の上映について、RNNも岡山県での上映及び告知等に協力していくことになりました。

昨年12月25日に岡山カトリック教会で開催された第88回定例会議に、後藤正史副委員長(同教会主任司祭)の紹介によって岡山県映画普及センター(岡山市玉柏2137-1)の米戸正氏が特別参加され、同映画の紹介をするともに、岡山県での上映及び告知への協力依頼がRNNに寄せられました。

アフガニスタンの復興支援には、RNNでもベシヤワール会現地代表の中村哲医師を通じて取り組んできた経緯もあり、素晴らしい内容であることから、協力させて頂くことにしました。映画のあらすじは次の通りです。

「ろう啞者で義肢装具士を目指している女性(いづみ/忍足亜希子)が、NGOの一員として、荒廃を極め、ようやく復興の途についたばかりのアフガニスタンに行くことになり、現地の診療所で様々な体験をしながら忙しく働いていた。ある日、地雷のため片足を失った少女(バリザット)に出会う。しかし、いい義足を作



この映画には有名俳優も出演し、現地で協力してアフガニスタン・ロケを敢行した本格的な日本映画です。県内の上映日程は2月22日(津山文化センター)、3月6日(岡山市民文化ホール)、3月14日(倉敷健康福祉プラザ)となっています。

なお、このほど岡山県での上映委員会代表に後藤副委員長が就任しました。

第10回おかやま国際貢献NGOサミット

総合テーマ：持続可能な開発のための教育 2004年 1月22日(木)～25日(日)

RNNフォーラム

会場 岡山国際交流センター
日 時 午後1時00分開会
1/24 午後5時00分閉会

テーマ：宗教と平和「平和構築のための宗教間対話」

RNNフォーラムについて

1996年の「第3回おかやま国際貢献NGOサミット」を機に発足したRNN人道援助宗教NGOネットワークは、岡山県内の教団本部・寺院・教会を中心とした12の宗旨・宗派からの宗教者による「宗際ネットワーク」で、今までに緊急救援の募金と物資提供、災害復興支援、また各種啓発活動を行ってきました。とりわけ、9・11テロ以降は、テロ後間もない10月3日に「日本ムスリム協会」の樋口美作会長(当時)を講師に迎えたシンポジウム「イスラム—その平和の教え—」を開催してイスラム教への正しい理解を深める一方、「ペシャワール会(NGO)」現地代表の中村哲医師を招いた講演会「救いの大地—アフガニスタン復興への歩み—」を開催してアフガニスタンの実情を知り、テロ一年後の2002年9月には「第9回おかやま国際貢献NGOサミット」の分科会(RNNフォーラム)「宗教は平和の担い手になり得るか」で講師として北アイルランドの元テロリストで現在キリスト教牧師のヒュー・ブラウン師を招いて、憎しみと報復の連鎖を断ち切るために信仰による赦しの心がいかに大切であるかを学びました。また、昨年4月には「イラクに平和を」を合言葉に平和行進と祈りの集いを行いました。こうした宗教間対話による平和への取り組みの今後の可能性を模索するべく、このたびは海外からの専門家を招いて標記フォーラムを開催することになった次第です。このフォーラムを通じて、さらに宗際ネットワークの輪が広がり信頼の絆が強められることを期待しています。

プログラム

- 13:00 開会の式 平和の祈り
RNN活動紹介
- 13:20 基調講演
講師 マット・ワイナー氏
- 14:10 休憩 / 会場設営
- 14:30 パネルディスカッション
- 16:45 閉会の辞 平和の祈り
- 17:00 終了

講師紹介



◆◆ 基調講演 ◆◆
マット・ワイナー氏
Mr. Matt Weiner
アメリカ合衆国
ニューヨーク宗教センターのプログラム・ディレクター。ハーバード大学神学部卒(世界の諸宗教及び比較宗教学論専攻)。国連事務総長局をはじめ、ニューヨークの大学、図書館、裁判所、移民団体と協働して多くのプログラム・行事を企画し、同センターの教育プログラムの方法論を確立。諸宗教団体のコンサルタントとしても活躍。



◆◆ パネリスト ◆◆
チン・クン師
VenMaster Chin Kung
オーストラリア
ビュアランド・ラーニング・カレッジ(浄土研修大学)学長/グリフィス大学、クイーンズランド大学名誉教授。1927年中国安徽省生まれ。1998年にオーストラリア・グリフィス大学のマルチ・フェイイス・センター(多宗教センター)の設立に協力。2001年に仏教指導者の教育のため、ビュアランド・ラーニング・カレッジを創立。

トーマス・スウィン氏

Patrick Swee-Hin
オーストラリア



◆◆ コメンテーター ◆◆
荒木 美智雄氏
筑波大学名誉教授、国士館大学21世紀アジア学部教授。専門分野は宗教学(比較宗教学)、世界宗教学、比較文化論、宗教倫理思想論、都市文明と宗教の歴史、民族宗教論。



シロガマ・ヴィマラ師

Ven. Shigamata Wimala
スリランカ



プリミティブ・オ・チュア医師

Dr. Primitivo D. Chua
フィリピン

医療をテーマとした第1回おかやま国際貢献NGOサミットに出席。個人的信仰に基づく宗教と平和への見解を医師の立場から発言。

RNN 活動協賛者名

※下記の名称は、協賛者が寺院、教会、団体、個人等の場合でも所属教団、宗派名のみを掲載させて頂きました。

イスラーム	臨済宗	立正佼成会	プロテスタント	天理教	天台宗	創価学会	真言宗	最上稲荷教	金光教	黒住教	カトリック
-------	-----	-------	---------	-----	-----	------	-----	-------	-----	-----	-------